

介護実習生が記述した実習日誌の現状と課題
－「本日の目標」に焦点を当てて－

長谷川恭子・東海林藍

実践報告

介護実習生が記述した実習日誌の現状と課題

－「本日の目標」に焦点を当てて－

長谷川恭子・東海林藍

I. はじめに

介護福祉士の養成課程において介護実習の総時間数は450時間であり、重要な科目となっている。教育方法の手引き¹⁾では想定される教育内容の例として、領域の目的と教育内容のねらい(図1)を以下のように示している。

■想定される教育内容の例 (9) 介護実習

領域の目的: 介護
1. 介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての態度を養う。 2. 介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する。 3. 本人、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する。 4. 対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。 5. 介護実践における安全を管理するための基礎的な知識・技術を習得する。 6. 各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践に必要な観察力・判断力及び思考力を養う。
教育内容のねらい: 介護実習
(1) 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。 (2) 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。

図1 領域の目的と教育内容のねらい

教育内容のねらいを「実習の目的」と書き換えれば、(1) 地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。(2) 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。となる。学生は介護実習によって、この2つの目的を達成するために日々の目標を立てながら実習に臨むことになり、この日々の目標を記載するものが実習記録(日誌)である。なお本学のある三重県は養成校ごとに実習に関する記録の形式が全く異なると実習施設側が戸惑うのではないかとという観点から、三重県介護福祉士養成施設協会が記録用紙のベース作成し、すべての養成校が同じ様式を使用している(図2)。

実習記録の意義については、介護実習指導のためのガイドライン²⁾にいくつか記されている。その一つに「将来介護福祉士となった時の介護記録を書くベースとなるもの」とある。介護記録は、介護計画に記されている利用者の生活課題に対する長期・短期の目標を達成するための支援が、日々実践されているかを記録するためのものである。また、記録をもとに計画の見直しや評価を行っている。実習記録を介護記録に置き換えて考えるとすれば、実習の目的が課題であり、それを達成するための長期目標が実習期間中の大目標となり、短期目標が毎日の目標(小目標)となる。そして、自身の立てた大目標を達成する

介護実習生が記述した実習日誌の現状と課題

[illegible]

図2 三重県内養成校共通の実習日誌

ため、日々の小目標を立て、その日の実習でどのように動くことができたのか、目標は達成できたのかを記録し、最後に大目標を達成し目的を果たすことができたかを振りかえることになる。実習記録を書くことで、介護記録の意義を学ぶことにつながる。

しかし、これまでの学生の日々の目標設定を確認してみると、目標ではなく「心構え」や「実施すること」を記載しているケースが散見された。そのため、その日の達成度や反省が書けない状況もあった。よって、本報告では実習前に開講される介護実習総合演習において、介護記録の意義を説明するとともに、振り返りのできる目標を具体的に示し、目標設定の方法を指導した上で、介護実習Ⅱから介護実習Ⅲにかけ改善されたかについて介護記録から分析した。

II. 授業の到達目標

1) 介護実習総合演習Ⅲ

介護実習総合演習Ⅲの授業では15回の授業内容で以下の到達目標を挙げている。(シラバスより)

1. 介護実習Ⅲの目標・課題を明確にし、効果的な実践を行うための創意工夫ができる。
2. 実習施設の概要を理解し、多職種との連携の重要性を知る。報告・連絡・相談ができる。
3. 利用者の状態に合ったアセスメントと介護目標に沿った介護実践を適切に記録できる。

介護実習Ⅲでの実践が円滑に行え、学びが深められるよう、各分野の内容を具体的に自ら学び理解できるよう授業を展開することを授業テーマと設定している。

2) 介護実習Ⅲ

介護実習Ⅲでは、以下の到達目標を挙げている。(シラバスより)

1. 利用者の生活課題に着目した介護技術の展開ができるよう、助言のもと実践する中で、その能力を身につけ、利用者に合わせた生活支援技術を学ぶ。
2. 受け持ち利用者に必要な介護計画を立案し、援助・評価・考察などを実践し介護過程の一連の流れが理解できる。

既習の知識や技術を統合し、利用者に合わせた生活支援技術を実践できること、また介護計画に沿った介護支援が展開できることを授業テーマに設定している。介護実習Ⅲでは担当教員及び実習指導者の指導を受けながら実習する。受け持ち利用者の全体像を把握したうえで、その人らしい生活により近づける生活支援を介護計画立案から評価・考察までできるようになる。

Ⅲ. 用語の定義

本実践報告での目的とは、上記で述べた授業の到達目標を指す。この授業の到達目標を達成するために個々の学生が考える実習目標を大目標とする。この大目標は介護実習の事前学習を行う授業において作成し、介護実習前に事前に実習先に提出するものである。この大目標を達成するための日々の実習目標を小目標とする。

Ⅳ. 倫理的配慮

倫理的配慮として、本実践報告は個人を特定するものではないことや、対象者が不利益になるようなことがないよう、予め介護実習総合演習Ⅲ及び介護実習Ⅲ履修学生に伝達し、同意を得た。なお、本実践報告は高田短期大学研究倫理委員会の承認（高短第 24-3 号）を得ている。

Ⅴ. 方法

介護実習総合演習Ⅲの授業において、以下の内容について指導し、介護実習Ⅲに臨んだ。本実践報告の対象者は、介護実習総合演習Ⅲ及び介護実習Ⅲの履修学生のうち、3名を事例として挙げる。

1) 記録の目的

記録の必要性について、以下の5点を重点的に指導した。記録は介護の専門職として重要な業務の一つであることを改めて指導した。

- ①具体的な支援の証拠とする
- ②利用者への関わりや支援方法の妥当性を計るため
- ③介護従事者の資質向上に向けて、支援の振り返りを行う際に活用するため

④支援の標準化（誰もが同じような支援ができること）を図るため

⑤多職種と情報共有を行う際、共通認識に立った支援を目指すことができるようにするため

2) 実習日誌とは

実習日ごとに実習目標を立て、目標到達に向け、自身が何に取り組んだのか等、その日の実習成果を記録するものが日々の実習日誌である。実習全体を通して個々の学生が目指すべき到達目標は大目標として、実習前に設定されている。毎日の実習目標（小目標）は、基本となる大目標に近づくためにどのような実習内容を積み上げていく必要があるかについて、まず考えていかなければならない。実際の実習内容にも照らし合わせながら、日々ステップアップできるような目標立てを行っていくことが望ましい。

次に、実習スケジュールについて、これは実際に行動した内容を時系列で記入していく。実践内容を詳細にしていくことで、最終的に実践と学びの過不足が明確になり不足している学習内容については実習指導者に依頼するなど、積極的に学習することにも結び付いていく。

実習を終えて記載する内容は、毎日記入する日々の目標に対する達成状況である。引用文献によると³⁾ 日々の目標に対して、①目標達成に向けて自分はどのような行動をしたのか、②行動を通して理解した点や学び、自分の反省すべき点や課題は何か、③自分が今後さらに学びたいと思う点や努力すべきことは何かについて記入していくとある。

本学の実習日誌は、「本日の目標達成度及び反省」の他、「実習内容と本日の学び」として見学・実施した内容やかかわりの中で観察できたこと、利用者との応答で気付いたことを具体的に記入する項目がある。これは、客観的事実と主体的事柄を分けて記入するものである。実習では様々な日課（プログラム）に参加できる機会を与えられる。日々の目標以外にも学びとなる点は多くあり、これらの積み重ねにより、日常生活を継続させていくことの意味や支援の在り方について総合的に理解を深めることができる。

記載する上で注意してほしい事として、具体的な情景や理由を記載するという点である。読み手となる実習指導者や教員にとっては内容が伝わらなければ評価や助言をどの部分に対して返すべきかがわからず、学習成果の報告としての記録の意義を減少させてしまうからである。また、記録はある程度の日数が経過すると忘れてしまう部分も多く、何を学び、気づき得たのかが見えないため、振り返りや再学習の資料としての記録の活用が後になって、できないということもある。記録は貴重な体験を残した個人的財産でもあるといえることから、詳細に記載することを指導した。

3) 実習日誌の目標設定の指導方法

実習においては、実習目標に添って実習を進めていくことが重要となる。何を求めて何を到達地点とするのかを実習生は常に考えながら実習を行う必要がある。

介護実習総合演習Ⅲの授業内で、履修学生が既に実施している介護実習Ⅱでの個々の日

誌から「わかりやすい目標」と「わかりにくい目標」を分類し、パワーポイントにまとめたもの（図3）を提示し学生に指導した。「わかりにくい目標」とは、実施する事柄や心構えが目標となっている点である。心構えとは、物事に対処するための心の準備や覚悟を指す。また、

予想される状況に対して精神的な準備を整え、適切に対応するための準備を意味する。心構えは目標に到達するために自分が持つべき気持ちであることから、実習の目標と心構えは分けて考える必要がある。

実習日誌「本日の目標」について
わかりにくい例…

- ・オムツ交換
 - ・食事介助する
 - ・トイレ介助について学ぶ
 - ・パット交換をできるようになる
 - ・受け持ち利用者とたくさん話す
 - ・職員の動きを見る
- } することは
 目標
 ではない

- ・介助のポイントを知る
- ・利用者の食事の様子をみる
- ・レクリエーションを成功させる
- ・介助を積極的に行う
- ・介助する時はあせらず行う
- ・ベットメイキングを学ぶ
- ・リハビリを学ぶ

★わかりやすい目標例

- ・安全に配慮した食事介助の工夫を学ぶ
- ・利用者とのコミュニケーションを取り、利用者のニーズを知る
- ・傾聴、受容、共感を使ってコミュニケーションをとる
- ・個々の利用者の生活リズムや個性、習慣を理解する
- ・誤嚥に配慮した食事介助を学ぶ
- ・腰痛のリスクを軽減させる介護技術を学ぶ
- ・利用者が安心して入浴できるように意識することを学ぶ
- ・排泄介助で伝わりやすい声かけのポイントを学ぶ
- ・受け持ち利用者の特性を理解し、コミュニケーションを図る
- ・一人ひとりに合った排泄介助を実践する

図3 学生に提示した資料

VI. 結果

介護実習Ⅱにおいて具体的な小目標が立てられていなかった3名の学生の介護実習Ⅲでの小目標を、実習日誌から確認した。

1) 履修学生 A (日本人女性・19歳)

介護実習Ⅱ	【大目標】 1. 利用者の症状や障害を知り、自分でも考え状況に応じた介助ができる 2. 受け持ち利用者の介護過程を誰が見てもわかりやすい記録にする 3. 現在自分にできる介助の技術を使い、安全安楽に配慮した生活支援技術を実践する 【小目標】 ・おむつ交換を見学し、実際に介助する ・トイレ介助および排泄介助をする ・入浴介助を見学する ・レクリエーションを通して利用者と関わる
-------	---

介護実習生が記述した実習日誌の現状と課題

	・ 介護の内容を実施する ・ 自分にできる支援をする ・ 利用者とのコミュニケーションをとる ・ 変則勤務の仕事内容を知る
介護実習Ⅲ	【大目標】 1. 利用者の個々の状況に応じた生活支援技術を安全・安楽に配慮して実施することができる 2. 自己の行った支援を判断した過程とともに記録できる 3. 利用者の個別ニーズ（生活課題）を把握することができる 【小目標】 ・ 職員の方や利用者の方に挨拶し、1日の流れを知る ・ 受け持ち利用者の情報収集をする ・ 受け持ち利用者の思いを知る ・ 遅番での普段見られない利用者の生活を知る ・ 介助をするうえで、できていないことをおさえる ・ 個浴の入浴介助の方法を学ぶ 介助の声かけから利用者の動きを知る ・ 介助の中の無意識を意識してみる ・ 重度の利用者の方の介助から体の使い方を学び、実施する

実習Ⅱから実習Ⅲを比較すると、大目標及び小目標設定の捉え方に大きな違いは見いだせなかった。しかし、実習Ⅱでは「すること」が目標設定の中心になっていたが、実習Ⅲでは「すること」に加えて「なに」を「どのようにする」かが記入されている目標があった。実習Ⅲでは本人にしか、わからない「無意識」の表現があり、やや抽象的で目標の達成度を評価しづらい目標設定をしているものもあった。

2) 履修学生 B（日本人女性・20 歳）

介護実習Ⅱ	【大目標】 1. 受け持ち利用者の感情を知り、的確に記録する 2. 職員の利用者に対する声掛けを観察して学ぶ 3. 夜勤の業務内容や流れを知る 【小目標】 ・ 1日の流れを知る ・ 介助をするときは焦らない ・ 介助を積極的に行う ・ 職員と利用者の様子をみる ・ 介助するときは必ず声かけする ・ 入浴の流れを知る ・ 受け持ち利用者の介護内容を実施する ・ 入浴での注意を知る
介護実習Ⅲ	【大目標】 1. 医療的ケアを学ぶ 2. 個別性に応じた移乗の介助を学ぶ

	3. 食事介助の注意点を知る 【小目標】 ・入浴介助の見学 ・排泄、移乗介助をする ・移乗介助見学 ・受け持ち利用者の感情を知る ・排泄、移乗介助 ・就寝介助 ・環境整備 ・受け持ち利用者と折り紙、色塗りをする
--	---

実習Ⅱから実習Ⅲを比較すると、大目標及び小目標設定の捉え方に大きな違いは見いだせず変化は見られなかった。実習Ⅱでは「すること」が目標になっており、実習Ⅲでは「すること」が目標になっていることに加え、「就寝介助」「環境整備」といった熟語だけを記載したものが、「実際に何をするのか」といった具体性に欠けるものも目立っていた。また、介護実習Ⅲの大目標において、「医療的ケアを学ぶ」と設定しているが、小目標からは医療的ケアに関連するものはなかった。

3) 履修学生 C (外国人留学生・日本語能力 N2 レベル・女性 27 歳)

介護実習Ⅱ	【大目標】 1. 利用者の必要な情報を収集して排泄介助ができる 2. 利用者の様々な暮らしの場を理解して、コミュニケーションができる 3. 安全・安楽な介助ができる声のかけ方を身につける 【小目標】 ・コミュニケーションとる ・声のかけ方を身につける ・排泄介助をしてみる ・情報収集 ・お風呂介助 ・排泄排便 ・利用者と散歩 ・シーツ交換
介護実習Ⅲ	【大目標】 1. 利用者の必要な情報を収集して排泄介助ができる 2. 利用者の様々な暮らしの場を理解して、コミュニケーションができる 3. 安全・安楽な介助ができる声のかけ方を身につける 【小目標】 ・着脱介助について学ぶ ・安全安楽移動移乗介助について学ぶ ・認知症がある利用者の食事介助について学ぶ ・尿道カテーテルを持っている利用者の介助方法について学ぶ ・職員の動きと受け持ち利用者さんの夜間の様子を学ぶ

	・認知症がある方とコミュニケーション、声かけについて学ぶ ・移乗介助の方法について学び、実施する ・口腔ケアのことを学ぶ
--	--

介護実習Ⅱから介護実習Ⅲを比較すると、大目標及び小目標設定の捉え方に違いと変化が見られた。実習Ⅱでは、「すること」が目標になっていることに加え、「排泄排便」や「利用者と散歩」といった具体的に何をするのかが明確に記入できておらず、目標の達成度が記入しづらい目標設定をしているものもあった。実習Ⅲでは一部「すること」が目標になっているものもあるが、何をするのか、何を学びたいかを書くことが出来ていた。

VII. 考察・まとめ

本実践報告では、介護実習Ⅱ及び介護実習Ⅲの履修学生を対象に、実習日誌の小目標である日々の目標をどのように捉え、設定しているのかを実習日誌から確認した。予め介護実習Ⅱでの小目標から具体性に欠けると考えられるものをいくつか抜粋し、介護実習総合演習Ⅲの授業内で取り上げ、学生に提示、具体性に欠けるとはどういったことを指すのかを指導した上で、介護実習Ⅲに臨んだ。結果、介護実習Ⅲを履修した30名の内、3名の実習日誌を確認したが、介護実習Ⅱから介護実習Ⅲにかけて、小目標において大きな改善は見られなかった。本実践報告を通して、2つの課題が見えた。

1つ目は、履修学生3名の大目標および小目標を確認すると、関連性をもった目標設定が出来ていたかという点である。大目標を達成するための日々の実習目標を小目標とすることから、小目標は大目標に沿ったものにすることがある。例えば、履修学生Aは介護実習Ⅲの大目標において、「利用者の個別ニーズ（生活課題）を把握することができる」から、小目標を「受け持ち利用者の情報収集をする」「受け持ち利用者の思いを知る」と設定し、大目標に沿った小目標の設定を考えていることがうかがえる。しかし、履修学生Bは介護実習Ⅲの大目標において、「医療的ケアを学ぶ」と設定しているが、小目標からは医療的ケアに関連するものはなかった。履修学生Cにおいては、介護実習Ⅱ・Ⅲともに大目標を同じ内容に設定しているが、特に介護実習Ⅱの小目標は大目標との関連性が感じられない。履修学生Cは、介護実習Ⅱから介護実習Ⅲにおいて具体的に小目標を設定することができている。一つ考えられる要因として、介護実習Ⅱの前に日本語能力試験（JLPT）のN2を合格しており、介護実習Ⅱから介護実習Ⅲまで約5か月の期間に日本語能力が向上したことが考えられる。

このように、個々の履修学生が大目標と小目標を関連付けて実習に取り組んでいるかが不透明であることから、実習前の事前学習を行う授業では、大目標を達成するために小目標があるということを改めて指導する必要がある。

2つ目は、介護実習に向けた事前学習（本学では、「介護実習総合演習Ⅰ～Ⅲ」の科目）として、実習の必要性、どういう意味で必要であるのか、実習の意義と重要性をきちんと

理解させる必要がある。実習目標を理解し、自らが実習課題をもち、実習に行くという自覚を持つことが重要である。学生の中には、テキストの目標例示から選び出して書き写しているものもあるが、テキストの目標例示はあくまでも参考として活用する程度としたい。実習目標は、学生が実習の意義を理解し、何を学びたいのかを自身が考え、練ったものに行なければ効果が上がらないと考える。その為には介護実習に向けた事前学習の際にこの部分を重点的に指導する必要がある。また、学生の理解と記憶について教員が予め知っておく必要もある。先ほど述べた実習の意義や重要性、実習に限らずそもそも目的や目標の意味について、学生がどこまで理解しているのかを考える必要がある。例えば、目的や目標を設定し物事を遂行した経験がない者の場合、実習に対する目的や目標を設定することは難しいのではないだろうか。目的とは、最終的に到達、実現しようと目指すもの、それに対し目標は、さしあたって実現、到達しようと目指すことである。要するに、目標とは目的を到達する為に掲げるものである。「実習とは」という以前に、目的や目標の意味について理解を深める指導も必要であると考え。

本学では毎年実習反省会を開催している。これは、実習指導者と養成校教員が情報交換を行う機会を作ることを目的としている。この機会に実習生が考えた実習目標や記録物について実習指導者からの意見も参考にし、今後の授業改善に役立てたいと考える。

【引用文献】

- 1) 日本介護福祉士養成施設協会：介護福祉士の教育内容の見直しを踏まえた教授方法等に関する調査研究事業 報告書 介護福祉士養成課程 新カリキュラム，2019. 3 <https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000525326.pdf>
- 2) 公益社団法人日本介護福祉士会：介護実習指導のためのガイドライン，2019. 3 <https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000525760.pdf>
- 3) 中嶋朱美（2021）：学生・教員・施設職員のためのわかりやすい介護実習のすすめ方と記録の方法 施設編 3訂版. ふくろう出版

【参考文献】

1. 三重県介護福祉士養成施設協議会（2024）：三重県版介護実習の手引き. 中央法規出版株式会社
2. 中嶋朱美（2021）：学生・教員・施設職員のためのわかりやすい介護実習のすすめ方と記録の方法 施設編 3訂版. ふくろう出版
3. 白井幸久、土屋昭雄（2019）：介護実習サポートブック 実習を乗り切るための40講. 看護の科学社
4. 服部優子：介護現場と養成施設における実習指導と相互ニーズについての意識調査に関する一考察. 高田短期大学 介護・福祉研究 第8号（2022）

5. 村田マサミ：介護実習評価を通して効果的な実習方法を検討する．聖泉論叢 12 99-115, (2004)